

1 単元名 海の生きもののひみつブックを作ろう「サンゴの海の生きものたち」

2 単元の目標

- 海の生き物に興味をもち、それぞれのかかわり合いを読み取ったり、海の生き物の本を探して読もうとしたりとすることができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- 海の生き物のそれぞれの特徴と、それを生かしてかかわり合って生きるすばらしさを感じ取ることができる。
(読むこと)
- 説明の順序に気をつけながら、クマノミとイソギンチャク、ホンソメワケベラと大きな魚がそれぞれの特徴を生かして互いに役立つようにかかわり合っていることについて読み取ることができる。
(読むこと)
- 本を読んで見つけた海のいきもののひみつを簡単な文にまとめて伝えることができる。
(書くこと)

3 指導上の立場 ～響き合いを成立させるために～

- (1) 児童の実態について ～主に新たな自己との響き合いの充実に向けて～

削除しています。

- (2) 単元について ～主に学習材との響き合いの充実に向けて～

「サンゴの海の生きものたち」は、海の中の生きものたちがそれぞれの特徴を生かして互いに役立つようにかかわり合っていることについて述べた説明文である。児童にとっては難しくなじ

みのない内容であり、既習の学習より登場する生きものの数が多く、生きもの相互の関係もやや入り組んでいる。しかし、筆者によって様々な工夫がなされ、それがこの文章の魅力にもなっている。はじめに、「たがいにやくに立つようにかかわりあってくらしている」という言葉が、全体のキーワードとなり、それを受けた2段落の問いの文を讀みの視点として進めていくと、内容をとらえることができるようになっていく。また、文章全体が「はじめ→なか→おわり」という構成になっており、児童がとらえやすくなっている。さらに、生きものたちの特徴と、それによってお互いがどのような利益を得ているかということが順序よく説明されており理解しやすくなっている。具体例の説明では、「たいへんなことになります。」「びっくりしてしまいます。」と驚かせておいて、「でも～ありません。」と安心させるなど、児童は、ドキドキしながら読み進め、具体例1の読みを具体例2で生かすこともできる。

そこで本単元では、問いかけの文を拠り所に読み進め、身につけた読み方と得た感動を基に読書活動へと広げていくこととする。

(3) 支援の工夫 ～主に学習材、友達、児童と教師の響き合いの充実に向けて～

① 「つかむ」場面での支援の工夫

- ・ 単元の初めに学校司書による「海の生きもの」に関するブックトークを行うことにより、海の生きもののからしへの関心を高める。
- ・ ブックトークの後、海の美しい写真を提示して期待感を高め、本文を讀み聞かせることにより、楽しみながら内容をつかむことができるようにする。
- ・ リード文とつなぎながら「どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。」を拠り所に読んでいくことを確かめる。また、学習を生かして海の生きもののみみつブックを作ることを知らせておく。

② 「高める」場面での支援の工夫

- ・ 問いかけの文を常に意識し、立ち戻りながら学習を進めることにより、毎時間のめあてを明確にもち、文章の大まかなまとまりに気づきながら学習を進めることができるようにする。
- ・ 自分の考えをもつ場では、美しい写真からのイメージを大切にするため、教科書に直接サイドラインを引いたり書き込みをしたりする。また、お互いにしてあげているところにサイドラインを引き、やさしさハートを書き込むことで、共生について焦点化できるようにする。
- ・ 児童が読み取ったことを写真とつないで確認したり、ペープサートや動作化を取り入れたことにより、言葉にかかわりながら読み深めることができるようにする。
- ・ 全体の話し合いでは、教師も受容的な態度で発言を聞くことで安心して発表できる雰囲気づくりを行う。また、全体の話し合いが深まるような発問を考え、児童の言葉を補ったりつないだりして、確かな読みができるようにしていく。
- ・ 学習の流れが分かり、話し合いが焦点化・活性化するように板書の仕方を工夫する。

③ 「まとめる」場での支援の工夫

- ・ 話し合って読み深めたことを大事な言葉を使って自分でまとめる場を設けることにより、学んだことをより確かにしたり、学習したことへの満足感や成就感をもったりすることができるようにする。
- ・ 海の生き物に関する図書教材を一人一冊以上用意しておき、情報を集めやすい場の設定を行い、「海の生きもののみみつブック」作りに意欲的に取り組めるようにする。

4 単元の構想 (全9時間)

過程	次 時	学 習 活 動	支 援 と 評 価
つ か む	一 ①	○ 海の生きものに関するブックトークを聞き、「サンゴの海の生きものたち」を読む。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ブックトークを聞いて、感想を書こう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文の紹介の前に、海の生きものに関する本を学校司書に紹介してもらい、海の生きものや海の中のイメージを広げながら学習に入ることができるようにする。 ○ 本文を読む前に写真を掲示し、感じたことを語らせることにより、期待や関心をもちながら範読を聞いたり、はじめの感想を書いたりすることができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 海の生きものに関心を持ち、「サンゴの海の生きものたち」の感想を書くことができる。 「関心・意欲・態度」(観察・ノート) </div>
	②	○ 感想をもとに、話し合い、学習の見通しをもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">かんそうを話し合っ、大きなめあてをつくろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感想を、生きものの特徴に関することと、かかわり合いに関する事に整理して板書することにより、児童のもった思いや感動がリード文や問いかけの文とつながっていることを確認する。さらに、第1段落の「たがいにやくに立つように」に着目することにより、問いかけの文をよりどころに、「どんな生きものたちが、どのようにやく立ち合っているのだろうか」を読んでいくことを確認する。 ○ 学習の後半には、海の生きものに関係のある本を読み、「海の生きもののひみつブック」を作ることを知らせておく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 感想を発表し合い、学習の見通しをもつことができる。 「関心・意欲・態度」(発言) </div>
	二 ① (本時)	○ クマノミとイソギンチャクのかかわり合いを読む。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">クマノミとイソギンチャクはどのようにやく立ち合っているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの敵が何であることを確かめながら、お互いにしてあげているところにサイドラインを引き、かかわり合いについてより確かに読み取ることができるよ

高 め る		<p>うにする。</p> <p>○ クマノミとイソギンチャクのかかわり合いについてワークシートの吹き出しに言葉を書いてまとめることで、特徴を生かして守り合っていることへの理解を深めることができるようにする。</p>
		<p>クマノミとイソギンチャクは、それぞれの特徴を生かして互いに食べられないように守り合っていることを読み取ることができる。</p> <p style="text-align: right;">「読むこと」(ワークシート・発言)</p>
	②	<p>○ ホンソメワケベラの特徴と大きな魚とのかかわり合いを読む。</p>
	<p>ホンソメワケベラは、大きな魚とどのようにやく立ち合っているのだろう。</p>	<p>○ 「びっくり」「でも」に着目することにより、ホンソメワケベラの行動が意外で不思議なものであることをおさえることができるようにする。</p> <p>○ サイドラインを引いたり写真で確かめたり吹き出しに言葉を考えたりすることで、確かに読み取ることができるようにする。</p> <p>○ 具体例1をまねしながら、「こうして～」というまとめを考えることにより、かかわり合いへの理解を深めることができるようにする。</p>
	<p>ホンソメワケベラの特徴をとらえ、食べ物をもったりそうじをしてもらったりして助け合っていることを読み取ることができる。</p> <p style="text-align: right;">「読むこと」(ワークシート・発言)</p>	
	③	<p>○ 海の生きものたちのかかわり合いについてまとめる。</p>
	<p>海の生きものたちのかかわり合いについてまとめよう。</p>	<p>○ 二つの事例から思ったことや考えたことを話し合い、10段落の「このように～」とつなぐことにより、筆者が伝えたかったことを考えることができるようにする。</p> <p>○ 問いかけの文に常に戻りながら読み深めてきたことを想起させることにより、その大切さを確認できるようにする。</p> <p>○ 学習の足跡がわかる掲示物を見ながら、学習して分</p>

			<p>かったことや考えたことを書いてまとめることができるようにする。</p> <p>海の生きものたちが様々にかかわり合って暮らしていることのすばらしさや、問いかけの文に着目することの大切さを確かめ、学習して分かったことや考えたことを書くことができる。</p> <p>「読むこと」(ワークシート・発言)</p>
ま と	三 ① ②	○ 海の生きものについて書かれた本を読み、取材メモに調べたことを書く。	<p>海の生きものの本を読んで、伝えたいことをきめよう。</p> <p>○ 学校司書と連携をとりながら児童が読める本を用意し、環境を整えておく。</p> <p>○ ひみつブックづくりに生かせるように「しらべた生きものの名前」「ともだちに知らせたいこと」「読んだ本の名前」の欄を用意したメモに書き込むようにする。</p> <p>海の生きものに関心を持ち、本を選んで読むことができる。 「関心・意欲・態度」(観察・取材メモ)</p> <p>自分の選んだ生き物について、取材メモに必要なことを書くことができる。 「書くこと」(取材メモ)</p>
		③ ○ 取材メモをもとに、海の生きもののひみつブックを作ることができる。	<p>問いかけの文を考えて、せつめい文を書こう。</p> <p>○ 読むときに問いかけの文が役立ったことを想起させることにより、伝えたいひみつが答えになる問いかけの文を考えてから書くようにさせる。</p> <p>○ 学習したことのある説明文から問いかけの文の例を示したり、「でしょうか」「のです」の問いと答えになる言葉を確認めたりして生きもののひみつブックの文を書くことができるようにする。</p> <p>問いかけの文を考えて、知らせたい海の生きもののひみつブックを作ることができる。</p> <p>「書くこと」(海の生きもののひみつブック)</p>
め る		④ ○ 海の生きもののひみつを紹介し合い、学習のまとめをする。	<p>海の生きもののひみつをしょうかいし合おう。</p> <p>○ ペアを変えながら紹介し合い、お互いに感想を伝え</p>

		合うことで、学習への満足感をもつことができるようにする。
		海のいきもののひみつを紹介し合い、感想を伝えることができる。「関心・意欲・態度」(観察・ノート)

5 本時案 (第二次 第1時)

目 標	「どくのはり」「ねばねばしたえき」「カチカチと音を立てておいはらう」など大事な言葉に着目しながら、イソギンチャクとクマノミがそれぞれの敵から守り合っていることを読み取ることができる。	
過 程	学 習 活 動	教 師 の 支 援 と 工 夫
つ か む	1 本時のめあてをつかむ。	○ 問いかけの文を確認した後、イソギンチャクとクマノミの写真を提示することにより、本時のめあてをつかむことができるようにする。
	めあて クマノミとイソギンチャクはどのようにやく立ち合っているのだろう。	
も つ	2 イソギンチャクとクマノミの特徴を読む。	○ 本時の学習場面を音読し、確認する。 ○ 出てくる生き物を尋ね、次の言葉をおさえながら特徴をとらえることができるようにする。
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈イソギンチャク〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 細長いたくさんのしょく手 ・ ゆらゆらさせています ・ どくのはり ・ つかまえて食べている <p>〈クマノミ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きれいなオレンジ色の魚 ・ 体は、ねばねばしたえきでおおわれています ・ カチカチと音をたてておいはらってしまいます </div>
	3 イソギンチャクとクマノミとのかかわり合いについて自分の考えをもつ。	○ 助けてあげていることが書かれているところにサイドラインを引くように指示し、気づいたことや考えたことを書きこんでいくことを伝え、自分の考えをもつことができるようにする。 ○ とまどっている児童には、「たすけてあげているところがあるかな」「一緒にいるとどんないいことがあるのかな」と尋ねたり、対話しながら一緒に探したりする。
	4 イソギンチャクとクマノミのかかわり合いについて話し合う。	○ 次の言葉を手がかりに、かかわり合いについて話し合う。
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈クマノミ〉・こわがって ・近づいてきません ・あんぜん</p> <p>〈イソギンチャク〉・音 ・おいはらって</p> </div>

<p>高 め る</p>		<p>○ クマノミの敵が何かをおさえ、「大きな魚はイソギンチャクの何をこわがっているのだろう」と問いかけることにより、イソギンチャクの体の仕組みや特徴と結びつけながら読み取ることができるようにする。</p> <p>○ クマノミと大きな魚のペープサートを用意し、イソギンチャクから離れたところにいるクマノミと、イソギンチャクの中にいるクマノミの違いを考える。そして、接続詞「だから」と結びつけながら、イソギンチャクの中に入れてくまノミは「あんぜん」であることをおさえられるようにする。</p> <p>○ 「スイミーもイソギンチャクの中に入れて助けてあげよう」と投げかけることで、次のことをおさえることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スイミーは、体にねばねばした液がないのでイソギンチャクの毒の針に刺され大変なことになる。 ・ カチカチという音は特別な音で、スイミーは、カチカチという音を立てることができないので、小さな魚を追い払ってイソギンチャクを守ってあげることができない。 <p>○ イソギンチャクとクマノミは、お互いが敵を近づけないようにして役に立ち、守り合っているからこそすばらしいことを、なかよしのハートを使って視覚に訴えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>クマノミとイソギンチャクは、それぞれの特徴を生かして互いに食べられないように守り合っていることを読み取ることができる。 「読むこと」(ワークシート・発言)</p> </div>
<p>ま と め る</p>	<p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>○ 板書をもとに振り返り、ワークシートの吹き出しにクマノミとイソギンチャクの話していることを書くことにより本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <p>イソギンチャクはクマノミを食べにくる大きな魚をどくのはりをもつしよく手でまもっている。クマノミはイソギンチャクを食べにくる小さな魚をカチカチという音をたてておいほらいまもっている。だから、イソギンチャクとクマノミはたがいにまもりあっている。</p> </div> <p>6 次時の学習について知る。</p>
		<p>○ ホンソメワケベラと大きな魚の写真を提示し、次時の学習への意欲を高めることができるようにする。</p>